



社会福祉
法人

豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

1998年(平成10年)9月1日

第28号

発行

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

編集委員会

〒560-0881 豊中市中桜塚2-28-7 Tel (848) 1000

やってみよう!! 若いカツぽみ

市社協登録ボランティアグループ「つぽみ」は、結成7年を迎えた学生・社会人を中心とした20代のグループです。

夏休みに開催される青少年サマーボランティアスクールの参加を通じて、「これからもボランティアを続けたい」「同じ世代の障害者と交流をしてみたい」という考えのスクール卒業生を中心にして結成しました。

現在は主にサマーボランティアスクールの手伝い、ボランティアフェスティバル等のイベントへの参加、個々のボランティア依頼等の活動をしています。



ボランティアフェスティバルではモッピーを着て活躍!!

あまりメンバーがボランティア活動への時間をさくことが難しいのが悩みですが、同じ目的を持った者が集まって様々な立場の方と交流し、お互いに刺激し合って成長していけたらと思います。

そして、社会に出た後も、ボランティアを通じた経験を生かせるように肩ひじをはらず、楽しく活動していきたいと思っています。

～声～

日本中を熱狂の渦に巻き込んだ感のあるワールドカップも終わりました。普段サッカーにはさほどの興味はなく、Jリーグの試合もほとんど見る事もないのですが、この日本の出場した3試合は夜遅かったにもかかわらずテレビ観戦を楽しみました。楽しんだと言っても、点の入らない試合にやきもきしながら少々消化不良気味だったのですが、それはそれで最後には「レベルの高い世界を相手に、よくぞここまで!」などと感動したりしていました。

今回は思いがけない選手の降板なども含めて多くの人が試合の行方に注目していた事でしょう。テレビ観戦の身でさえ、はがゆく思える選手もあったのですから、わざわざ現地まで出向き、生の試合を応援したサポーターの人たちの無念さは想像に余りあるでしょう。それでも現地でのテレビ・ラジオで報道された、日本選手・サポーターの行儀の良さは気

持ちの良いもので、試合結果はさておき、さわやかな印象を残してくれました。

ただ一つ残念なのは、選手が帰国した時の事件です。熱狂的なファンとはいえ、公衆の面前で一人の選手に清涼飲料水を浴びせるなどという事は許されない事だと思えるのです。自分の感情の赴くままに行動するのは、今、社会的に大きく扱われている少年たちの突然の問題行動と何ら変わりがないように思えます。

最後の最後に、人として深く考える事、他人を思いやる事、そんなこんなを考えさせてくれたワールドカップでした。

(T. D)





ボランティア

豊中市社会福祉協議会では、昭和59年度より「ボランティア協力校事業」を実施していきなり、「行動する勇氣」と「自主性」を養い、豊かな心を持つ人間として育てることを目的としています。今回はその中で、豊中市立南桜塚小学校と豊中市立少路小学校の取り組みをご紹介します。

南桜塚小学校「ボランティアキッズ」 子どもさわやか賞受賞！！

豊中市立南桜塚小学校(校長 相原弘志)は平成5年度より協力校の指定を受け、特に地域の高齢者との交流活動に力を入れています。平成9年度には、新たに地域のひとり暮らし老人の会「ときわ会」の方々との昼食会を開催したり、年賀状ボランティアを行うなど活発に活動をしています。こうした地域の方々との交流活動が評価され、平成10年5月23日、子どもさわやか賞を受賞しました。今回は6月27日の「ときわ会」との昼食会にお邪魔してきました。



朝 南桜塚小学校 家庭科室 集合

今回のメニューはカレーライス、野菜サラダ、フルーツポンチ。地域の民生委員さんとお母さん方、そして今回の参加児童27名、みんなで協力してカレーを煮たり、サラダやフルーツポンチを盛りつけたり…暑い中、一所懸命カレーをかきまぜる子は「よろこんでくれるおじいちゃんやおばあちゃんのためにがんばるねん！」と汗をかきながらがんばっていました。

11:30 昼食会開始

お昼前になると、ときわ会の方々(48名)も湯飲みとスプーンを持参で続々とランチルームに集合。みんなで協力してつくったカレーをあっという間に平らげ、おとなりの方や、子ども達とのおしゃべりに夢中！



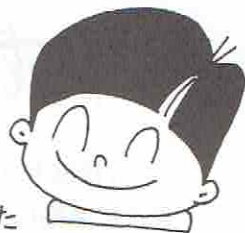
12:00 ゲーム開始

食事の後は子ども達が考えたゲームや歌の発表会。クイズや紙ちぎりゲームなどがにぎやかに行われました。会の終わりには子ども達から6月生まれの方へパスディカードのプレゼント。

子ども達もお年寄りもみんな楽しいひとときを過ごしました。



協力校事業



ます。この事業は子ども達にボランティア活動の場や機会を提供し、その体験を通して「やさしさ」「いたいます。平成10年度は32の小・中・高等学校が指定を受け、さまざまな活動を展開しています。

少路小学校6年生ボランティア体験学習 始めよう わくわくドキドキ ボランティア

豊中市立少路小学校(校長 西岡璋典)は昭和63年度に協力校の指定を受け、以後現在まで10年間にわたって活動しています。特に校区内にある特別養護老人ホーム「豊中グリーンヒル」との交流活動は長年続けています。今年度は6年生全体で社協登録ボランティアと一緒に3つのグループに分かれてボランティア体験学習をしました。また、普段ボランティア活動をされている皆さんとともにボランティアを体験し子ども達はいろいろ感じたようでした。

子ども達と一緒に活動したボランティアの声

老人ホームで交流し隊



私達ステッキはグリーンヒルを訪問しました。風船バレーで汗を流し、折り紙の作品をプレゼントし、お手玉の高度の技に子ども達が手を叩き、とても和やかな雰囲気でした。又男子児童が黙って車椅子を磨く姿が印象的でした。お別れにお年寄りからありがとうの

言葉と笑顔をもらい子ども達も大変喜んでいました。これをきっかけにボランティアの心が育つことを願っています。

市立

少路小学校

からの要請で、去る

6月30日と7月3日に

6年生を対象にしたボランティア

活動の体験学習をお手伝いしました。

従来小学校での体験学習は一学

年全員とか全校学童を一律に学

習することが多かったのですが

今回は学童一人ひとりの希望

に従って3つのグループに分

けて学習しました。すなわち、

子ども達は従来の受身の立場

から、自分の意志で興味や関心

のある活動を選択することが出来た

ため、それだけ熱心に真面目に学習し

ていることが、私達にも充分感じとられ、今

後の体験学習のやり方にも大いに参考になりました。

学習終了後、先生から学童の一人ひとりに感想や意見を

聞かれたところ、全員がそれぞれ臆することなく、率直な意見を述べた

ことには感心しました。教室で一緒に給食を食べながら童心にかえって

談笑したことも、私達には滅多にないことで、楽しい一時を過ごすことが

出来ました。(市社協登録ボランティアグループ「みちるべ」H. K)

(市社協登録ボランティアグループ「ステッキ」 C. N)



先日、少

路小学校の6年

生の子供達に手話を教

えに行きました。初めての経

験でしたが、まず50音の指

文字から、挨拶の言葉、

「人間っていいな」の歌詞

を手話で教えました。50

音の指文字を練習してから

自分の名前を指文字で

ほとんど表現出来たので

驚きました。最初に子ども達

の表情をみますと、「こんなむ

ずかしいのは無理だなあ」という

感じでしたがやり始めるとだんだん

面白くなってきたのか楽しそうに興味を持

ち始めたようでした。教える立場に立つとやはり子ども

達に興味を持たせるような教え方があると思ひ、むずかしい

とつくづく思いました。でも、手話を少しだけでも覚えてくれて

嬉しいと思っています。

(手話サークル「あさなぎ」K. N)

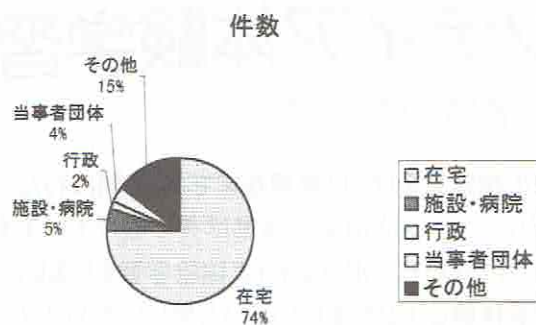
少路ウォッチング隊

手話で話し隊

平成9年度ボランティアセンター事業報告

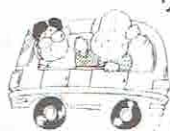
市社協ボランティアセンターでは、平成9年度、385件に2,204回、のべ3,629名の登録ボランティアの方々に活動していただきました。これは、平成8年度に比べて100件以上増加しています。

特に子育て支援やリハビリの介助、リフト付き自動車「ユウあい号」での送迎が急増しています。



リフト付き自動車「ユウあい号」での送迎

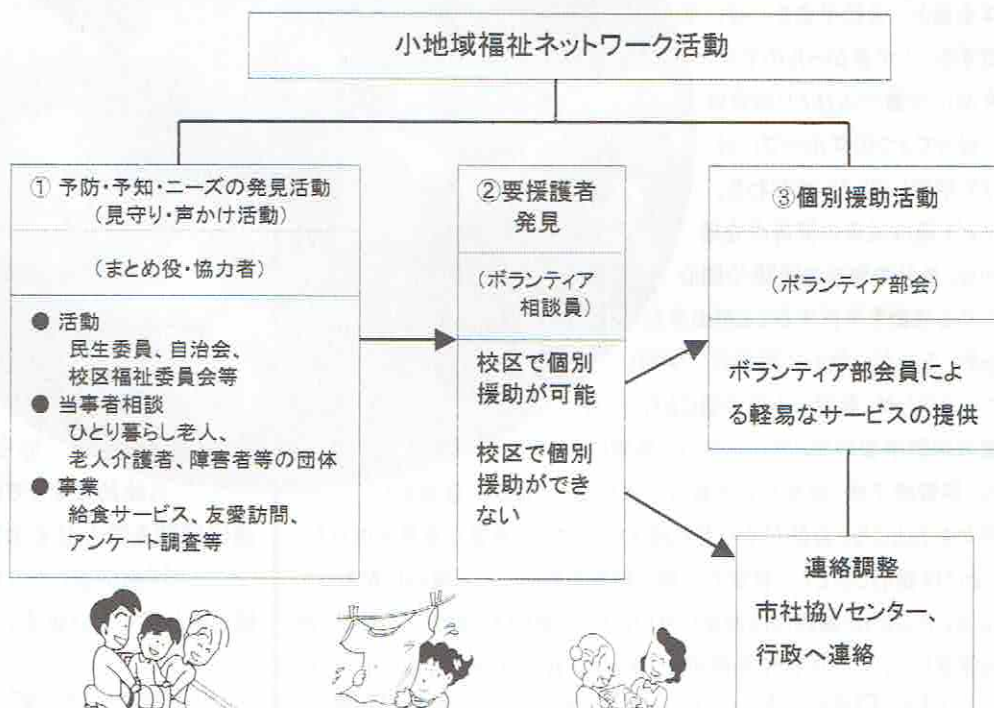
登録状況	
登録人数	503名
男性	109名
女性	394名



ひろがる小地域福祉ネットワーク 校区で進む、見守り・個別支援の輪

個別支援	101件	派遣回数	1,584回	延べ派遣人数	1,655名
見守り世帯数	511件	見守り回数	338回	延べボランティア人数	5,511名

地域での個別支援活動



ボランティアスクール大集合！！

市社協ボランティアセンターでは、さまざまなボランティアスクールを開講しています。

今回はその中で、3つの講座をご紹介します。

ボランティアスクール入門講座

これから何か活動を始めようかな？と思っている方に対して開催している講座です。今回の講座では吉田芳子先生の講演のほか、実際にボランティア活動をされている方の体験談や車椅子・アイマスク体験、インスタントシニア体験など、座学だけではなく、いろいろと体験していただきました。

参加者からは、あいている時間があればボランティア活動に参加したいという声や、一步踏み出してみようと思いますといった感想が寄せられました。



インスタントシニア体験



青少年サマーボランティアスクール

この講座は青少年を対象にボランティアについての学習や体験、仲間づくりを目的に開催しています。今回は大阪ボランティア協会の永井氏や当事者団体の活動内容・福祉施設の活動概要等の講演を聴いた後、市内の福祉施設でボランティア実習を行いました。受講生達からは、真夏の日差しをいっぱい浴びながら「ボランティアって楽しいですね」「これからはずっと続けていきたいです」などの感想が寄せられました。

この夏に流した汗と感動を大切に、これからのボランティア活動に活かしてください。



施設実習の様子

社会人のためのサタディボランティアスクール

阪神・淡路大震災以後、ボランティアに対する関心は高まり、企業においてもボランティア休暇制度の導入など、ボランティア活動を取り巻く環境は少しずつ整備されてきましたが、実際は、なかなか何に取り組んで良いのかわからないという相談が市社協に寄せられるようになりました。そこで「企業・団体の社会貢献活動検討委員会」の中で企画し、講座とボランティア体験学習、宿泊プログラムからなる「社会人向けのボランティアスクール」を行いました。

初年度で、府下でも初めての試みだったにもかかわらず、60名の定員を超える申込みがあったことから市民の関心がうかがえます。参加動機も「仕事以外の自分を発見したい」や「人事担当で企業の社会貢献について学ぶため」等さまざま。

初日は、実際企業人でボランティア活動をしている人の体験談やボランティアの理論、車椅子やガイドヘルプの体験などを行いました。参加者は一様に普段の生活とは違った体験に会社人間から新たな一歩を踏み始めたようでした。



ボランティアは今・・・



平成5年1月半ば、私は何度目かの住民票の移動に豊中市役所を訪れました。同時にボランティアグループの紹介をお願いしたら、社会福祉協議会を紹介された。臆する気を奮いたたせ、その足で社協へ。そこで「ステッキ」の仲間に入れていただきました。右も左も知らない町の中で知らない人ばかりなのに、職員の方の励ましとステッキの仲間の支えで、気が付けば自転車で走り回っていた。ずっと豊中に住んでいる人のような顔をして。

「こんなにしてもろおて」と言う90歳代のおばあ様に、「どういたしまして」と答える東京から引越してきた仲間の一人

と、「そうしたら“おおきに”と言うのかしら」と笑いながら話す。話題の乏しくなった方とせめて使い慣れた関西弁でお話できれば、どんなに良いかと思うがなかなか難問題。言葉がダメならあとは身体よ、とばかり手をしっかりと握れば安心して下さる。そんな私に“おおきに”と言って下さる。

「おおきに」「どういたしまして」の一言に魅せられて「また、お会いしましょうね」「来週も寄せて下さいね」がずっと続くことを願いながら走り回っていた。そして5年が経っていた。ステッキの仲間と一緒に。

(K. S)

ボランティアレポーター訪問記

「歌体操グループ」さわやかに5周年！

「いきいき歌体操グループ・さわやか」も発足以来5年になり、5月30日に「5周年記念の集い」をさせていただき、事務局より温情あふれる御祝辞を頂戴しました。また、豊中以外のグループの方も沢山参加され、福祉会館のホールがゆれるばかり盛大に楽しく過ごしました。

グループは平成5年4月21日に発足、市社協の9番目の登録ボランティア・グループとしてです。この年の2月に社協が歌体操の考案者である寺島龍子先生をお招きして講習会を開かれ、沢山の方が参加されましたが、そのほとぼりの覚めぬうちにとグループ結成になったのです。始めはたどたどしい歩みで月2回の例会をこなしていましたが、市社協からの大きなバックアップのおかげで、現在では特養をはじめ各老人ホームや病院、地域のふれあい会食会、老人会などで活躍し、9月の「敬老の日」の行事では幾つもの小学校をハシゴしています。

歌体操は童謡、唱歌やポピュラーな歌謡曲に合わせて、身体にリズムをつけ、手足を動かして体操し、寝たきりや障害を持った方も楽しくリラックスして残存機能をいかし、自立した、張りのある生活の方向づけやリハビリに効果があります。

私達はこのような歌体操を通じてお年寄りや身体の弱い方たちと触れあい、心の交流をもちながら、かえってこの皆様方からいろいろと教えていただくことが多いのです。特養などで歌体操のあと車椅子の方の手を握ると「また来てね」と言われます。私共にとってこの言葉以上の報酬はありません。歌体操の実技以外に震災支援ボランティア、お年寄りのお話し相手、老人ホームのバスツアー介助、その他のいろいろなボランティア活動も行っています。

この5周年を期にまた初心にもどって歌体操の輪を一層ひろげるよう努めていきたいと思ひます。ますます多くのご参加と、より一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

(T. T)

編集後記

今まで年に3回発行していた「センターだより」が今年度より年2回になりました。回数が減った分、内容を充実させ、よりボランティアに興味をもってもらえる紙面作りを心がけたいと思っています。ご意見がありましたら、お寄せください。

(H.T)

ボランティアセンターホームページ制作

8月18、19日の2日間、登録ボランティア8人がNTT北大阪支店の協力でボランティアセンターのホームページ作りに取り組みしました。

このホームページ作りは「企業・団体の社会貢献活動検討委員会」で「学生や社会人がボランティア情報を得るためには、インターネットのホームページが有効」という提案があったのをきっかけに制作が開始されました。



このページは9月中旬より公開されます。お楽しみに！

～お知らせ～

★使用済みプリペイドカード集めてます！！

「もういらないから…」と捨ててしまおうと思っている使い終わったテレホンカードや回数券を、福祉のために役立ててみませんか。市社協では使用済みプリペイドカードを集めています。このカードは換金して市社協の事業費として活用させていただきます。

対象となるのは

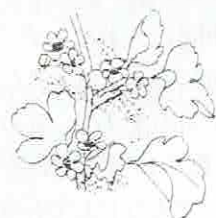
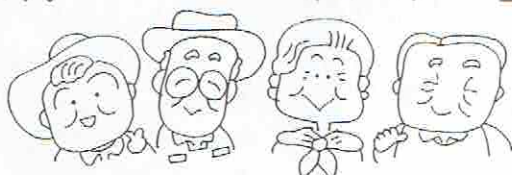
テレホンカード、ラガールカードなど回数券

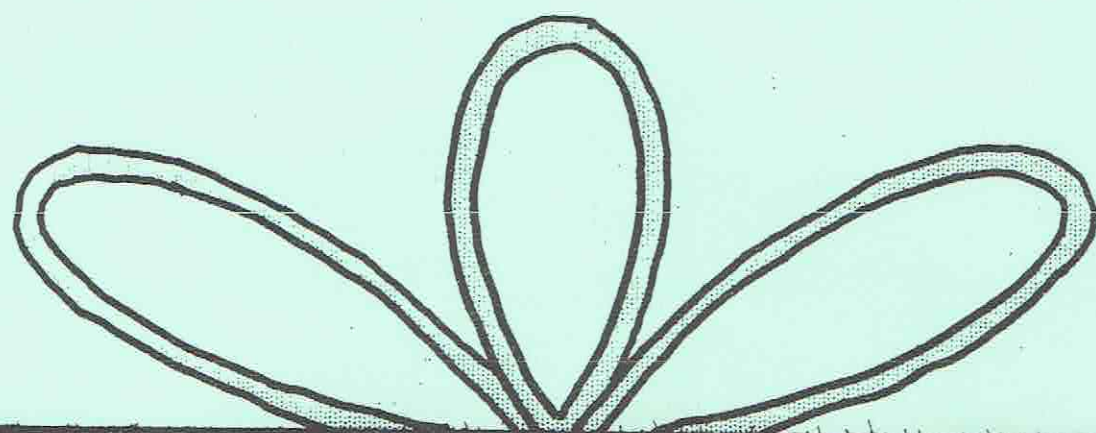
お問合せは

豊中市社会福祉協議会 Tel. 06-841-9393



1998年5月30日「5周年の集い」於 市立福祉会館 集会室





豊中市社会福祉協議会ボランティアセンター

ホームページ開設しました

アドレスは

<http://www.nttl-net.ne.jp/tcpvc>

どしどしアクセスしてください！

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

電話(06)841-9393

大阪府豊中市中桜塚2丁目28番7号

(豊中市立福祉会館内)